

# ProMED-mail情報 2021年 8月版

ProMED-mail <https://www.promedmail.org/> の記事から、感染症業務関係者の皆さまにピックアップ記事を紹介し、FORTH（厚生労働省検疫所の情報提供サイト <https://www.forth.go.jp/>）に掲載されるものは省略しています。

編集：厚生労働省福岡検疫所

掲載日	表題	概要
30日	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 日本	福岡県八女市で、60歳の男性がSFTSを発症し死亡。発熱と倦怠感で8月16日に入院。右足首の刺し口からSFTSが疑われ、3日後に診断に至った。農作業の際にダニに刺された疑い。SFTSはダニ媒介性のブニヤウイルスによる感染症で、致死率は6-30%にのぼる。
29日	ハフ病 ブラジル	ブラジルのアマゾナス州とバイーア州で、淡水魚の摂食歴があるハフ病疑いの患者が少なくとも25名いるとの報告。ハフ病は「黒尿症」とも言われており、特定の魚介類中の毒素により横紋筋融解が引き起こされる。
25日	鳥インフルエンザ (H5N6) 中国	広東省恵州市で、H5N6鳥インフルエンザウイルス感染の52歳女性の報告。患者は現在病院で治療中。専門家は、この患者は散发例であり、感染伝播のリスクは依然として低い、と述べている。
18日	E型肝炎 南スーダン	南スーダンで、国内避難民のためのベンティウキャンプでE型肝炎により8名が死亡。このキャンプでは2019年よりE型肝炎の流行が続いており、今年度の新規患者数は219名、累計では905名となった。
15日	ハンタウイルス 台湾	台湾のCDCは、渡航歴のない40代男性が、ねずみによる咬傷によりハンタウイルス感染症に罹患したと報告。本症例は、咬傷後翌日に発熱した稀なケースである。台湾では今年度すでに8名のハンタウイルス感染症患者が報告されている。
15日	エボラ出血熱 コートジボワール	1994年以来コートジボワールで初めてのエボラ出血熱患者の報告。患者は18歳の女性で、8月11日にギニアのラベから陸路でコートジボワールに入国し、翌日医療機関を受診した。この患者が、今年2月のギニアでの流行と関連があるかは現時点では不明で、接触者も特定中。
13日	野兎病 (ツラレミア) スペイン	4名の野兎病患者が報告された。野兎病は野兎病菌による人獣共通感染症。スペインでは野ウサギ狩りに関連した発症が1997年と2007年に、1998年には汚染された淡水域でのザリガニ釣りに起因する集団発生が確認された。今回はザリガニ釣りの3~5日後で発症。
11日	マールブルグ病 ギニア	ギニアのンゼレコレ州で、西アフリカとしては初のマールブルグ病患者の報告。患者の男性は、発熱、頭痛、全身倦怠感、腹痛、歯肉出血で7月25日に発症。マラリア迅速検査は陰性で対処療法を行っていたが8月2日に死亡。死後の検体を用いたPCR検査で診断に至った。この地域はエボラ出血熱の流行地であったが、エボラウイルスは陰性であった。
11日	ジェームスタウン キャニオンウイルス 感染症 アメリカ	ニューハンプシャー州のダブリンで、今年初のジェームスタウンキャニオンウイルス陽性患者が死亡した。7月28日に蚊の刺咬歴あり。このウイルスは北米に分布しており、稀であるが蚊を介してヒトにも感染する。
7日	クリミア・コンゴ 出血熱 パキスタン	パキスタンのクエッタ県でクリミア・コンゴ出血熱の患者の報告。6名の疑い患者のうち4名が陽性であった。クリミア・コンゴ出血熱は、主に動物からヒトに感染するダニ媒介性のウイルス感染症で、発熱、頭痛、筋肉痛、嘔吐、下痢、出血傾向などの症状が認められる。
4日	サル痘 ナイジェリア	ナイジェリアでは、今年初めから17名、7月に少なくとも4名がサル痘に感染している。昨年と比較し、すでに倍以上の感染者が報告されている。2017年のアウトブレイク以降、ナイジェリアでは約500名の患者が発生しており、8名の死亡が報告されている。
1日	オウム病 チリ	チリのオソルノ州で、28歳の獣医師がオウム病に感染。肺炎で発症し、現在は人工呼吸器装着中。オウム病は、オウム病クラミジア菌による人獣共通感染症で、主に病鳥の排泄物からの病原体の吸入により発症する。